

## ～みなさん「想い」を聞いてください～



当センター玄関壁には、燕の巣があります。今年、春に6羽の雛が巣立ちました。空っぽになった巣を見ていると、寂しさと共に深まりゆく秋をより強く感じます。一方で、当センター近くの市立高宮小学校近くの電線には、燕の一団が、鈴なりに止まっていました。これから温かい南の地に旅立つ準備をしているのだと思います。この群れの中に、当センターの玄関から巣立った燕がいるのかなと考えただけで、気持ちが「ほっ」としました。

これから秋の深まりと共に、朝夕の寒さも身に染みて来る時期に向かいます。特に注意しなければいけないのは、インフルエンザとコロナ対策です。インフルエンザは、予防接種をされ、早期対策をされますように、また、コロナ感染症も冬に向けて、引き続いて、「新しい生活様式」の取り組みと健康維持に努めてください。

がんばりましょう。

### ◆あいさつ運動のすばらしさ実感～(八島指導員)

昨年の12月から民生委員活動を始めて10ヶ月です。毎月、見守り対象者の方への定期的な訪問活動(感染症に配慮した活動)や小・中学校前での「愛の呼びかけ運動」を行っています。

9月の始めには、「愛の呼びかけ運動」の担当で、私を含め担当委員3名が集まり、また、その場に参集された方は、校長先生を始め、教頭先生、佐々部駐在所のお巡りさん、子どもに同行し、地域の見守り活動されている方など、多くの方の顔がそこにはありました。私は、当番ということで、取り組みに参加しましたが、毎朝、見守りを兼ねて子どもに随行しておられる地元の方、駐在所、学校の関係者の皆さんは、自分の事として、子どもの見守り活動、あいさつ運動をされておられます。「すごい！」の一言に尽きます。よく聞く話かもしれませんが、子どもは家庭、学校だけでなく地域全体で育てる、このことを改めて、実感できた朝でした。

子ども達は、大人の行動を見ています。これから成長していく過程の中で、なに

がしか影響を受けていくのではないのでしょうか。そのように思うのは、以前、車の中で聞いたラジオを思い出しました。それは、このような趣旨の内容でした。

学校の登校中に、工事現場の作業員の方が、子どもに向けて、必ず「おはよう」の一言をかけてきたそうです。(はじめは、子どもからあいさつに対する返しがどうであったかまでは、覚えていませんが、恐らく、最初は返答が出来ていなかったのではと思います。) その出来事に対して、あいさつを受けた子どもが、「自分も大きくなったら、あいさつをしたい。」とのコメントがラジオを通して放送されていました。「おはよう」という言葉を通して、見知らぬもの同士の触れ合いが生まれ、その子の心に響き、成長に結びついた出来事であったと思います。

改めて、あいさつの意味を、ネットで調べてみました。色々解説されていましたが、「あいさつは、心を開き相手を対等で同じ地球に生きる仲間として認め信頼関係を築いていく大切な一瞬」とありました。意味の深さを感じましたが、単純にあいさつをすると気持ちがよくお互い元気がでる・・・というのが実感です。「たかがあいさつ、と思うか、されどあいさつとして、行動するのか」何かが変わるきっかけになるかもしれません。

追伸、一概に言えないのは、今の時代、知らない人との接し方について、どうすればいいかについては、別問題として、注意することも一方では必要な社会となっていることも感じています。むずかしい世の中ですなあ～。

## 突然ですが

### ◆「はいせつ」のお困りごとはありませんか？ (田村相談員)

当センターでは、たくさんの紙おむつや尿取りパッドなどを展示紹介していますが、決しておむつを推奨しているというわけではありません。排泄ケアはおむつだけではなく、他の方法があることも是非お伝えし、一緒に考えたいと思っています。

私自身、排泄ケアの研修で紙おむつを着けて過ごし、紙おむつに排泄をする、という体験を何度かしましたが、決して気持ちの良いものではありませんでした。物心ついた時からトイレで排泄をする習慣、長い時間をかけて培われた文化は、身体も、頭も、心も、すんなり、抵抗なく切り替えられるものではありませんでした。状況が許すのであれば、おむつでない方がいいな、と思いました。

しかしながら、必要としている人に適切に利用されるおむつは排泄ケアの力強い味方です。大切なのは、介護される人、介護する人が少しでも心穏やかな、そして豊かな時間を過ごせること、そのために私たちをサポートしてくれる優れた介護の用具があるということ、皆さんとお話できればと思っています。